

様式 3-3

岡山県生物科学総合研究所 試験研究課題事後評価票

| | | | | | |
|----|----------------|-------|---|-----|-------------------------|
| 番号 | A-2-2 A-2-3 | 課題名 | 花や果実に高い付加価値を持つ農作物や園芸品種創出のための基盤研究 育種期間短縮のための新技術開発 | | |
| 期間 | H19～20(23)年度 | 担当部課室 | 遺伝子統御解析第1チーム | 評価者 | 神崎、白石 田中、西村 福田、松岡 |

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価結果 |
|-------------------|---|------|
| 目標達成度 | 5：目標を大きく上回って達成した。 4：目標を上回って達成した。 3：目標どおりに達成した。 | 3.5 |
| | 5：0 4：3 3：3 2：0 1：0 | |
| 有効性 | 5：見込みを大きく上回る効果があった。 4：見込みを上回る効果があった。 3：見込みどおりの効果があった。 2：見込んだ効果を下回った。 1：効果が得られなかった。 | 3.5 |
| | 5：0 4：3 3：3 2：0 1：0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5：当初目的以外に著しい成果が得られた。 4：当初目的以外の成果が得られた。 3：当初目的以外の成果は特になかった。 | 3.3 |
| | 5：0 4：2 3：4 2：0 1：0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5：費用対効果の面で極めて優れていた。 4：費用対効果の面で優れていた。 3：費用に見合った効果が得られた。 2：費用対効果の面で問題があった。 1：費用対効果の面で大きな問題があった。 | 3.3 |
| | 5：0 4：2 3：4 2：0 1：0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5：計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4：計画より優れた手法等により実施された。 3：概ね計画どおりに実施された。 2：計画どおりに実施できなかった。 1：ほとんど計画どおりに実施できなかった。 | 3.2 |
| | 5：0 4：1 3：5 2：0 1：0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5：技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4：技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3：技術移転、実用化等の可能性がある。 2：技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1：技術移転、実用化等の見込みが低い。 | 3.7 |
| | 5：1 4：3 3：1 2：1 1：0 | |

| | | |
|------|--|-----|
| 総合評価 | 5：著しい成果が得られた。 4：十分な成果が得られた。 3：一定の成果が得られた。 2：見込んだ成果を下回った。 1：成果が得られなかった。 | 3.7 |
| | 5：0 4：4 3：2 2：0 1：0 | |

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

| |
|---|
| <p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果樹（岡山の）への応用を目指して続けられれば応用を考えた際GMの制限をクリアできるかどうかは大きな問題と思います。岡山県の農業試験場と共同で仕事は？ ○実証段階前で終わらせるのはもったいない。実証試験まで進めるべきである。 ○他の研究期間で実用化されることを祈ります。海外も含め、特許権を売ることも可能かも知れない。 ○台木を用いるアゲイアは大変興味深い、発表にもあった通り効果が見込める果樹への適用が出来なかったのが非常に残念である。成果は是非論文として公表して欲しい。 ○台木により組み換えの問題をクリア出来る可能性があり、将来の技術として期待できる。 ○研究期間が短いために、成果を議論することが難しいが、将来性のある成果だと思う。 |
|---|

岡山県生物科学総合研究所 試験研究課題事後評価票

| | | | | | | |
|----|------------|-------|-------------------------------|-----|-------------------------|--|
| 番号 | C-1-12-2 | 課題名 | 超分子形成による高機能性次世代型ポリアミノ酸の生合成の研究 | | | |
| 期間 | 19 ~ 20 年度 | 担当部課室 | 物質機能解析第2チーム | 評価者 | 神崎、白石 田中、西村 福田、松岡 | |

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価結果 |
|-------------------|---|------|
| 目標達成度 | 5 : 目標を大きく上回って達成した。 4 : 目標を上回って達成した。 3 : 目標どおりに達成した。 2 : 目標を下回った。 1 : 目標を達成できなかった。 | 3. 0 |
| | 5 : 0 4 : 0 3 : 6 2 : 0 1 : 0 | |
| 有効性 | 5 : 見込みを大きく上回る効果があった。 4 : 見込みを上回る効果があった。 3 : 見込みどおりの効果があった。 2 : 見込んだ効果を下回った。 1 : 効果が得られなかった。 | 2. 8 |
| | 5 : 0 4 : 0 3 : 5 2 : 1 1 : 0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5 : 当初目的以外に著しい成果が得られた。 4 : 当初目的以外の成果が得られた。 3 : 当初目的以外の成果は特になかった。 | 3. 3 |
| | 5 : 0 4 : 2 3 : 4 2 : 0 1 : 0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5 : 費用対効果の面で極めて優れていた。 4 : 費用対効果の面で優れていた。 3 : 費用に見合った効果が得られた。 2 : 費用対効果の面で問題があった。 1 : 費用対効果の面で大きな問題があった。 | 3. 2 |
| | 5 : 0 4 : 1 3 : 5 2 : 0 1 : 0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5 : 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4 : 計画より優れた手法等により実施された。 3 : 概ね計画どおりに実施された。 2 : 計画どおりに実施できなかった。 1 : ほとんど計画どおりに実施できなかった。 | 2. 8 |
| | 5 : 0 4 : 0 3 : 5 2 : 1 1 : 0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5 : 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4 : 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3 : 技術移転、実用化等の可能性がある。 2 : 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1 : 技術移転、実用化等の見込みが低い。 | 2. 7 |
| | 5 : 0 4 : 1 3 : 3 2 : 1 1 : 0 | |
| 総合評価 | 5 : 著しい成果が得られた。 4 : 十分な成果が得られた。 3 : 一定の成果が得られた。 2 : 見込んだ成果を下回った。 1 : 成果が得られなかった。 | 3. 2 |
| | 5 : 0 4 : 1 3 : 5 2 : 0 1 : 0 | |

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

| |
|---|
| <p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な有用性（商品化につながる）を示せる方向が望ましいのでは、構造を決めることが重要と思います。決まれば新たな展開（応用も基礎も）が進められると思います。 ○機能解析が出来れば基本特許にもつながる内容であり、途中で終わるのはもったいない。 ○共同研究を予定した企業などで成果が生かされることを期待します。 ○新しい抗菌性素材の開発に向けた研究である。当初の予想通りには進まなかった点もあるが、一定の成果は得られていると考える。これまでの成果も論文として発表されており、本分野への貢献もあった。 ○助走期間の研究として、それに見合った研究成果が得られた。 ○やはり、研究期間の短縮により、当初想定した成果には至らなかったが、興味深い結果を出したと考える。 |
|---|

岡山県生物科学総合研究所 試験研究課題事後評価票

| | | | | | |
|----|-----------------|-------|---|-----|-------------------------|
| 番号 | A-3-8 B-1-10 | 課題名 | 植物の環境ストレス耐性機構の解明と耐性作物作出の基盤研究 イネ有用遺伝子の機能解析と有用性の研究 | | |
| 期間 | 平成19～20年度 | 担当部課室 | (旧)遺伝子統御解析第2チーム | 評価者 | 神崎、白石 田中、西村 福田、松岡 |

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価結果 |
|-------------------|--|------|
| 目標達成度 | 5: 目標を大きく上回って達成した。 4: 目標を上回って達成した。 3: 目標どおりに達成した。 2: 目標を下回った。 1: 目標を達成できなかった。 | 3.5 |
| | 5:0 4:3 3:3 2:0 1:0 | |
| 有効性 | 5: 見込みを大きく上回る効果があった。 4: 見込みを上回る効果があった。 3: 見込みどおりの効果があった。 2: 見込んだ効果を下回った。 1: 効果が得られなかった。 | 3.5 |
| | 5:0 4:3 3:3 2:0 1:0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5: 当初目的以外に著しい成果が得られた。 4: 当初目的以外の成果が得られた。 3: 当初目的以外の成果は特になかった。 | 3.2 |
| | 5:0 4:1 3:5 2:0 1:0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5: 費用対効果の面で極めて優れていた。 4: 費用対効果の面で優れていた。 3: 費用に見合った効果が得られた。 2: 費用対効果の面で問題があった。 1: 費用対効果の面で大きな問題があった。 | 3.2 |
| | 5:0 4:1 3:5 2:0 1:0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5: 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4: 計画より優れた手法等により実施された。 3: 概ね計画どおりに実施された。 2: 計画どおりに実施できなかった。 1: ほとんど計画どおりに実施できなかった。 | 3.0 |
| | 5:0 4:0 3:6 2:0 1:0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5: 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4: 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3: 技術移転、実用化等の可能性がある。 2: 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1: 技術移転、実用化等の見込みが低い。 | 3.5 |
| | 5:0 4:3 3:3 2:0 1:0 | |

| | | |
|------|---|-----|
| 総合評価 | 5: 著しい成果が得られた。 4: 十分な成果が得られた。 3: 一定の成果が得られた。 2: 見込んだ成果を下回った。 1: 成果が得られなかった。 | 3.8 |
| | 5:0 4:5 3:1 2:0 1:0 | |

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

助言・指摘事項等

- 作物への基本的な応用展開が示せれば日本の農業への応用か世界の農業への応用かとなると後者でしょうか？
- 候補遺伝子が取得できた段階で終わってしまうのは極めてもったいない。これから実証段階に進むべきである。
- せっかくの成果が他の機関でも生かされることを希望します。
- 新しい環境対応因子が網羅的に選抜できたことは評価できる。体対体の同様の実験結果と照らし合わせると新しい視点が見えてくると考えられる。
- いくつかの有力な体遺伝子が見つかってきているので、これを農水省に技術移転するなどの後処理が必要。
- 期待できる成果が出ていると思う。ぜひ、体を始めとした作物に応用する方向で成果の受け渡しを考えていただきたい。

岡山県生物科学総合研究所 試験研究課題事後評価票

| | | | | | |
|----|-----------------|-------|--|-----|----------------------|
| 番号 | A-3-5 C-2-13 | 課題名 | 植物の病害抵抗性機構の解明とナス・トマトに土壌病害抵抗性を付与する新技術開発 青枯病菌の感染機構と宿主域変異機構の解明 | | |
| 期間 | H19~20年度 | 担当部課室 | 遺伝子機能解析第1 | 評価者 | 神崎、白石、田中 西村、福田、松岡 |

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価結果 |
|-------------------|---|-------|
| 目標達成度 | 5 : 目標を大きく上回って達成した。 4 : 目標を上回って達成した。 3 : 目標どおりに達成した。 2 : 目標を下回った。 1 : 目標を達成できなかった。 | 4 . 2 |
| | 5 : 1 4 : 5 3 : 0 2 : 0 1 : 0 | |
| 有効性 | 5 : 見込みを大きく上回る効果があった。 4 : 見込みを上回る効果があった。 3 : 見込みどおりの効果があった。 2 : 見込んだ効果を下回った。 1 : 効果が得られなかった。 | 4 . 0 |
| | 5 : 0 4 : 6 3 : 0 2 : 0 1 : 0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5 : 当初目的以外に著しい成果が得られた。 4 : 当初目的以外の成果が得られた。 3 : 当初目的以外の成果は特になかった。 | 3 . 8 |
| | 5 : 0 4 : 5 3 : 1 2 : 0 1 : 0 | |
| 効率性 ・ 妥当性 | 5 : 費用対効果の面で極めて優れていた。 4 : 費用対効果の面で優れていた。 3 : 費用に見合った効果が得られた。 2 : 費用対効果の面で問題があった。 1 : 費用対効果の面で大きな問題があった。 | 3 . 3 |
| | 5 : 0 4 : 2 3 : 4 2 : 0 1 : 0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5 : 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4 : 計画より優れた手法等により実施された。 3 : 概ね計画どおりに実施された。 2 : 計画どおりに実施できなかった。 1 : ほとんど計画どおりに実施できなかった。 | 3 . 7 |
| | 5 : 1 4 : 2 3 : 3 2 : 0 1 : 0 | |
| 成果の活用 ・ 発展性 | 5 : 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4 : 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。 3 : 技術移転、実用化等の可能性がある。 2 : 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1 : 技術移転、実用化等の見込みが低い。 | 3 . 5 |
| | 5 : 0 4 : 4 3 : 1 2 : 1 1 : 0 | |

| | | |
|------|--|-------|
| 総合評価 | 5 : 著しい成果が得られた。 4 : 十分な成果が得られた。 3 : 一定の成果が得られた。 2 : 見込んだ成果を下回った。 1 : 成果が得られなかった。 | 4 . 3 |
| | 5 : 2 4 : 4 3 : 0 2 : 0 1 : 0 | |

評価項目：5から1までのいずれかを記入

総合評価：評価項目を総合的に勘案し、5から1までのいずれかを記入

| |
|--|
| <p>助言・指摘事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○応用への可能性がかなり高いように思います。網羅解析が非常に有効であったと理解しました。農業試験場等と共同でぜひ現場につながる応用を考えてもらいたいと思います。 ○極めて応用的にも大きい成果があがる可能性は高く、途中でストップするには惜しい内容である。特許取得が望まれる（極めて系統的内容であるのでここでストップさせないこと） ○短期間でよい成果を出されていると思います。種苗会社などで活用されるように、売り込む努力をしていただければと思います。 ○ハコ科の耐病性に関わる重要な研究である。このように系統立ったエフェクターの解析が行われた例は少ないことから高く評価できる。これまでの成果が論文として発表できたことでこの分野への貢献は十分にあったと考えるが、応用を視野に入れた当初の目的を達成する前に終了されたことは残念である。 ○基礎的なレベルから応用まで極めて有効な素材が得られた。今後の展開が実際には楽しみ。 ○非常に興味深い結果だと思う。この研究が中断されるのは極めて残念だと考えられる。成果の受け渡しを考えていただきたい。 |
|--|